

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

○学校全体及び各学年が標準偏差値「51」に到達する。

3. 指標にむけての取組

(1) 授業の充実の推進

○1単位時間内に必ず書く活動を位置づけた授業づくりを行う。

(2) 課題に応じたプリントの実施

○朝活動等の時間を活用し、専科教員の入り込みによる複数体制で個の課題に応じた指導にあたる。

(3) 漢字コンクール、漢字検定の取組

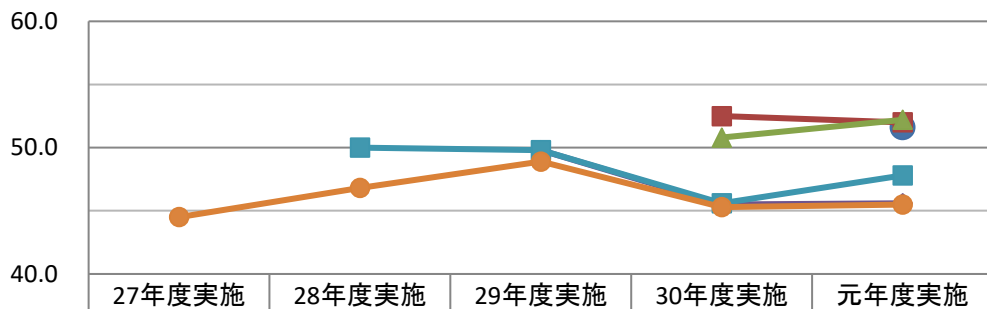
○学期末に漢字コンクール(クラス単位)、年度末に漢字検定(個人)を行い漢字力の定着を図る。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
本校(A)	47.4	47.6	50.1	48.4	49.4
嘉麻市(B)	50.8	50.7	51.5	51.4	51.1
(A) - (B)	-3.4	-3.1	-1.4	-3.0	-1.7
標準偏差値との差 (A) - (50)	-2.6	-2.4	0.1	-1.6	-0.6

各学年の推移



	27年度実施	28年度実施	29年度実施	30年度実施	元年度実施
● 元年度1年生					51.6
■ 元年度2年生				52.5	52.0
▲ 元年度3年生				50.8	52.2
◆ 元年度4年生			49.8	45.5	45.6
■ 元年度5年生		50.0	49.8	45.6	47.8
● 元年度6年生	44.5	46.8	48.9	45.3	45.5

5. 各学校における分析

国語科は、48.9、算数科は51.7という結果であった。算数科においては、成果指標である標準偏差値51をこえることができた。

(1) 授業の充実の推進

○算数科の主題研究において、書く活動を取り入れた授業づくりを行ったことで、自分の考えを書いたり説明したりできる児童が増加した。

(2) 課題に応じたプリントの実施

○TT授業や分割授業、朝の学習等の隙間時間を活用し、教職員全体で児童に関わることで、個別のつまずきに対応することができた。

(3) 漢字コンクール、漢字検定の取組

○漢字コンクール等の取組により「言語」の正答率が、平均をこえることができた。

6. 各学校における今後の取組

(1) 授業づくり

- 各教科におけるかく活動の位置付けと指導内容の焦点化(教材研究)
- 算数科において、学習の見通しをもたせ、主体的に「考える力」をつける学習過程の工夫
- 算数科重点単元で、習熟度別分割学習などにおける個に応じた指導

(2) 学習基盤づくり

- 課題克服プリント(朝の活動の時間)、算数計算プリントの実施
- 2学期末に集中した課題、反復練習の徹底
- 漢字認定(年1回)の実施

○語彙力を増やす国語・漢字辞典の活用

(3) 教員の指導力の向上

- 教員と児童の授業アンケートにおける評価の共有
- 主題研修、初任研、中堅教諭研における模擬授業、授業公開の実施

(4) 家庭学習の習慣化

- 保護者と連携した学期ごとの家庭学習振り返り週間の設定
- 各学年に応じた自学の推進

(5) その他

- 未来塾など外部人材の活用

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した思考を伴う「書く(かく)活動」や目的のある「話し合い活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「学力向上に向けた授業づくりの8つのポイント」や「書く活動ポイント9」を活用することができるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定したりする。